

e-dream-s通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

No.30 発行：2003年1月13日特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. Give e-dream-s a Chance 辻荘一 p.2
2. 新事業案再考のために 井川好二 p.3
3. 赤茶色の大地で 中川房代 p.8
4. ウッラーラー 山田昌子 p.9
5. 2002-2003 カメルーンツアー報告 山田昌子 p.13
6. 「辛い、でもうまい！！」 山本貴子 p.17
7. ECAP 実行委員会、Young Hee 先生との打ち合わせ報告 稲川宏美 p.19
8. News A CD-ROM プロジェクトを完了して 丸野有利子 p.20
9. News A の CD-ROM 完成！！ 飯田佐恵 p.21
10. @aglance 写真使用例の作成にご協力を！ 道面和枝 p.22
11. お知らせ p.24



ECAP 2003 Korea を韓国でお手伝いいただいている Kwon Young Hee 先生。アクロス
の冬合宿で韓国の教育事情についてお話いただいた。

Give e-dream-s a Chance

辻 莊一

私は蒸気機関はワットの発明だと習いましたが、今は実用的蒸気機関の発明者とされているのはイギリスのトマス・ニューコメンらしいですね。またニューコメンより先に1712年、イギリス人のトマス・セーヴァリが個人の邸宅へ給水用として蒸気機関を実用化していたので彼を発明者とすべきだという説もあり、さらにその発想となると、紀元前100年頃書かれた図が残っていて、そこには中心軸で支えられた球に逆方向を向いた二本のノズルをつけ、球の中から吹き出す蒸気を噴出させて球を回転させるタービンが描かれているらしいです。

考えてみれば、沸騰するお湯と蒸気を見て、蒸気が動力になるかもしれない、なんて誰でも思いつきそうなことです。おそらくそんなことを思いついた人は世界中で無数にいるのでしょう。ただ、その人達は思いついただけで終わっているのを忘れ去られ、形にした人だけが歴史に残っている、というわけですね。

人間の発想なんていうものは結局のところ似通っていますから、いろいろな時代や場所で多くの同じようなアイデアが生まれているのでしょう。そしてそれがいくら良いアイデアでも、そして先進的であればあるほど、社会からは理解されたり受け入れられたりするのには難しいはずですから、よほどの情熱と行動力がなければそれは消えて行ってしまう、というのが実情でしょう。現在発明者として名前が残っている人は、その発想を実用化するだけの行動力、情熱に加えて、その発明を理解し受け入れることができる社会にも恵まれた人だと言えるでしょう。

また、ある新事業立ち上げのカウンセラーによると、カウンセラーは新事業が成功するように導くことはできないそうです。つまり新事業が成功するかどうかはやってみなければ分からないと言うんですね。じゃあ、カウンセラーの仕事は無意味かということ、そうでもなくて、成功するかどうかは分からないけど、これでは絶対失敗する、というのはかなりはっきり分かるらしいです。ですからカウンセラーの大切な仕事のひとつは明らかな失敗要因を指摘する、というところにある訳です。そりゃそうですね、絶対成功するやり方が分かっていたらカウンセラーが自分でやるでしょう。また専門知識や経験があれば、絶対失敗する条件を見つけるのは難しくなさそうです。

ではどんな人が成功するかというと、必ずしも能力が高いとか、頭がいいという人で

はなくて、非常に運が良い人か、或いは「これで17回目の事業です、やっと成功しました」というような、倒れてもしぶとく立ち上がるタイプの人達らしいです。

e-dream-s の将来はこれから立ち上げる新事業にかかっている訳ですが、今まで私たちは慎重になりすぎていたようにも思います。もちろん細心の注意を払って準備しなければなりません、慎重になりすぎるあまり、新事業の不安材料ばかりに目がいつて、手足を縛られてしまっは何にもなりません。新しいことを始めるのですから、未知の部分や不安材料があつて当たり前、行動しなければ何も始まりません。

私たちは e-dream-s を何もないところから立ち上げました。ACROSS のサポートを除けば、私たちにあるのはアイデアと社会貢献への情熱と行動力だけだと言ってもよいでしょう。ですから e-dream-s が成功して根付くかどうかは、私たちがどれだけ素晴らしいアイデアをだし、どれだけの情熱をもって、どれだけ機敏に行動するか、にかかっているのです。

e-dream-s.come.true

新事業案再考のために

井川 好二

目下 e-dream-s の緊急課題は、新規事業の立ち上げである。財政状況が悪化している現状を踏まえ、新しく事業を興し、恒常的に収益の上がるシステムを構築する必要がある。

理事会を中心に今までに様々な議論が行なわれ、アイデアは出尽くした感もあるが、まだまだ本気のディスカッションがなされていない気がする。これぞと云う本命が出て来ていない気もするのである。会員全体がもっとも頭を絞つて案を出し、甲論乙駁をやりつくし、百年の計とまではいかないが、今後十年くらいの期間に渡つて、e-dream-s が真剣に取り組み、しかも収益の上がるプロジェクトを編み出すことが必須である。

時間はないが、時間をかけなければ、名案も浮かばないし、会員のコンセンサスも得

られないし、シナジー¹も産まれない。拙速は禁物。1+1=3の結果が出せる事業アイデアが、今必要なのである。

「完全保存版 独立辞典 2003」²によると、事業アイデアは、(1) 提供する商品・サービスがユニークであるか、(2) その販売・提供方法がユニークであれば、充分競争力があると考えられる。むしろ、(3) 商品・サービスとその販売・提供方法の両方がユニークであれば、鬼に金棒だが、そんなにうまいアイデアはなかなか浮かぶものではない。

ここで(1)のユニークな商品を考えてみると、例えば、「アジアなおにぎり」(商標「アジ・オニ」³)。本格的なアジアの自然食材を、新潟県水原産無農薬「こしひかり」⁴でおにぎりに仕立てたグルメな一品。「アジアの刺激」と「和の癒し」が一度に味わえる。そのこしひかりを、沖縄産海洋深層水⁵で炊いたものに、モンゴル産「天外天塩」⁶をまぶして握る。旨い。

商品例として、アジ・オニ【コリアン】(済州島産白菜キムチ、または大邱産カクテギ)、アジ・オニ【スリランカ・カレー】(スリランカ産チキンカレーのドライカレー仕立て)、アジ・オニ【トムヤンクム】(タイ・チェンマイ産のトムヤンクムのコンデンス)、アジ・オニ【ジンギスカン】(モンゴル・カラコルム産羊肉ロース使用)、アジオニ【台湾】(台湾産海鮮ビーフン)など。トッピングは、お好みに応じて、明石海峡産味付け海苔、丹波産黒胡麻、永平寺特産白胡麻、紀州産赤紫蘇、韓国慶州産チシャ、ベトナム産生春巻きの皮、などを用意。

街角のコンビニやスーパーで販売するのが常套手段であるこのアジ・オニであるが、(2)の「ユニークな販売・提供方法」を考えてみると、思い付くのが、「Cafe アジ・オニ」。オフィス街や繁華街にちょっとオシャレなエスニック風カフェを出店して、おにぎりだけではなく、スープ系、サラダ系、デザート系、ドリンク系メニューも出す。ちなみに、こうした横への展開を、「範囲の経済性」と云う。

スープ系は、みそ汁、わかめスープ、中華風たまごスープ、ベトナム風海鮮スープな

¹ ◆シナジー(synergy)[外来語年鑑 2002 年]相乗効果。[現代用語の基礎知識2002年版]

² 「完全保存版 独立辞典 2003」東京:リクルート

³ この事業アイデアを、許可なく使用したり、妄りに他人に漏らしたりすることを、堅く禁止します。

⁴ 例えば、http://www.5a.biglobe.ne.jp/~n_farm/index.htm 参照。

⁵ 例えば、<http://www.hum.ne.jp/user/odic/aquabeat.htm> 参照。

⁶ <http://www.rakuten.co.jp/rakushop/103012/109396/> 参照。

ど。サラダ系は、グリーンサラダ、ごぼうサラダ、コールスロー⁷、京漬け物盛り合わせ、など。デザート系は、みたらし団子、揚げ中華ゴマ団子、ライチのシャーベット、杏仁豆腐、チェーチュオイ⁸など。ドリンク系は、抹茶、煎茶、玄米茶、梅昆布茶、ウーロン茶、チャイ⁹、など。これで、決まり！？

アイデアを考える時には、時代の「もう一步先を考え」てみたり、過去の成功事例を検証してみることが大切だと「独立辞典 2003」は云う。成功事例は分かるとして、もう一步先とは、現状の先の先。現状 A がこのまま進めば、将来 B と云う状況が生まれるとは、誰もが程度予測を立てることができるが、事業化しようとする、その B になった時、起こってくる C と云う状態を予測し、その時、事業はこうあるべきだ、と考えること。なるほど。

キーワードを使って、事業案を考える方法も紹介されている。

事業軸	自分軸
導入・合体	不便・不満
分離・分割	感動・感激
蘇生・復活	興味・嗜好
変更・転用	経験・専門
輸入・輸出	持物・資産

事業軸を見ると、異業種を組み合わせて新事業を行なう（導入・合体）とか、既存の事業を分離、分割して新事業にする。ライフサイクルが終わった商品やサービスを稀少価値と定義付け事業化する。例えば、町家をイタリアン・レストランになどと云うのがこれにあたる。また、既存の商品やサービスを本来とは違うものに変えたり、新しい価値観でとらえたりする、などの手法が含まれている。

自分軸についてみると、日頃自分が不便、不満を感じている分野を事業にするとか、いろいろなアプローチが考えられる。自分が感動したり感激したこと、自分が興味のあることを、事業にしてしまう。自分に経験があり専門性の高いものを事業化したり、自分の持物や資産を使って事業を立ち上げる。自分の持物には、資格や人脈など眼に見えないものも含まれる。

⁷ ◆コールスロー(coleslaw)[外来語年鑑 2002 年]千切りキャベツをドレッシングなどであえたサラダ。[現代用語の基礎知識2002年版]

⁸ ベトナムのタピオカとバナナのデザート。

⁹ 濃く出る茶葉を使い、ミルクたっぷり煮出して作るインドのお茶。

<http://www.violetta.net/iyashi/iyashi-03.htm> 参照。

どうやら、e-dream-sの新規事業は、この「自分軸」を足がかりに発想し、「事業軸」で考えてみるのが正解に思える。なんと云っても、会員も理事も、事業には素人であることを逆手にとった発想力を、強みにしなければならない。

しかし、事業案を考える時に、考えるべきことの一つに「コア・コンピテンス」¹⁰と云う概念がある。自分達の組織の強みは何か？組織として固有の能力、技術が、他の企業やNPOとの競合の中で、強みとして発揮できることが、ポイントになる。ヒト、カネ、モノを効率的に使うためには、事業の中でコア・コンピテンスのある分野に、それらの経営資源を集中的に投入することが、肝要であることは云うまでもない¹¹。

逆に、自分達に「コア・コンピテンス」がない分野に関しては、思いきって外部に「アウトソーシング」¹²するのが、近頃の事業の定石である。

どのような事業が考えられるだろうか？なるほどと思わせる事業案を、以下に紹介する。まず、「ギネスブックへの世界記録申請代行」サービス。英語で煩雑な手続きを経なければならない申請を、代行してあげるビジネス。面白い。自分軸の「感激・感動」「不便・不満」あるいは、「経験・専門」から発生したのであろう。仏壇専門の掃除ビジネスと云うのもある。これは、自分の「不便・不満」からか？

慶応大学の金谷年展助教授は、「研究開発型ラーメン屋：『金太郎』」を、仙台で経営する¹³。「酒田飛島のあご焼き干し（山形）、大間の極上真昆布（青森）、古式醸造仙台味噌」でつくったラーメン。

「地場の産物を地元で消費する『地産地消』のラーメン店で環境に良い農林水産業を助け、エネルギーやコストも節約できる」と云う。「地域のいちばんおいしいものを生かした大衆料理の店をつくってみたかった。それが循環型社会づくりの一環ですし、地域の農林水産業の発展につながると考えて、大衆にいちばん近いラーメンを選んだのです。9月にオープンした仙台の店は、月に2万食も売れる大ヒットで、いまや全

¹⁰ コアコンピテンス【core competence】〔コア-コンピタンスとも〕企業の競争力の中核となる固有の能力や技術のこと。三省堂『ハイブリッド新辞林』

¹¹ <http://www.japan-open.com/ritsuan/05.html> 参照。

¹² 【outsourcing】n 外部調達, 外注, アウトソーシング《以前は自社で製造していた部品や製品を外部[外国]の業者から調達すること》; 《業務の》外部委託. [リーダーズ+プラスV2]

¹³ 朝日新聞(12/21/02) be. 「ラーメンと燃料電池で描く『未来社会』」

国トップクラスといわれています」

NPO が企業と異なる点は、公益性の強さである。利益追求ではなく、その活動を通して、ミッションに謳われた地域や国際社会への貢献が、第一義となる組織である。e-dream-s の新事業案へ向けて、皆で知恵を絞りたいものである。

纏めると：

1. 【ユニーク】商品・サービスがユニークか、販売・提供方法がユニークな事業を、新規事業に選ぶべき。
2. 【時代の先の先】その新規事業は、時代の先の先を見据えたプロジェクトであるべき。
3. 【自分軸】事業アイデアは、自分軸から発想し、事業軸に結び付けよう。
4. 【集中投資】e-dream-s は、その新規事業に、現在持てる経営資源（ヒト、カネ、モノ）を、集中して投入しよう。
5. 【コア・コンピテンス】e-dream-s が、コア・コンピテンスを発揮できる事業分野とすべき。
6. 【アウトソーシング】コア以外の分野は、積極的にアウトソーシングするべきである。そのためには、信頼できるパートナーを見つけよう。
7. 【範囲の経済】ひとつの事業アイデアから、横に広がる展開を考えよう
8. 【ミッション】新規事業は、公益性のあるミッションを実現できる事業であるべき。

「三人寄れば文殊¹⁴の知恵」と云う。会員や理事の知恵を結集して、e-dream-s に、文殊の知恵を！シナジーを！（Sunday, January 12, 2003）

¹⁴ もんじゅ-ぼさつ【文殊菩薩】仏の智慧(般若)を象徴する菩薩で、特に般若経で説かれる。諸菩薩の上首とされ、普賢菩薩と共に釈迦如来の脇侍で、獅子に乗って仏の左側に侍す。中国の五台山がその聖土として尊信される。法王子。妙吉祥。[広辞苑第五版図版付き]

赤茶色の大地で

中 川 房 代

「見て！ 見て！ サ・バ・ク！」

の声に促されて窓から外を見る。窓の外は一面の赤茶色の風景。

これが“サハラ砂漠”なんだ！ 初めて見る砂漠は、赤茶色だった。雲一つないので、上空 1 万メートルからでも地上の様子がよく見える。時々岩のような山が見える他は何もない。しかも、この風景は 3 時間近く続いた。パリからカメルーンのドゥアラ空港まで約 6 時間半のフライトだから、その半分は砂漠の上空を飛んでいることになる。

山田さんと私のカメルーンツアーの始まりは、上空から見る赤茶色の砂漠であった。カメルーンは砂漠地帯ではないが、この赤茶色とはカメルーン滞在中ずっと付き合うこととなる。カメルーンでは幹線道路以外は舗装していない道路も多く、街全体がこの色におおわれていた。アフリカの大地の色であり、夕陽の色であった。

9 日間滞在したカメルーンでは、5 校の学校訪問、ピグミー族の居留地訪問、ホームステイ・ビジット、市内見学を行い、毎日何が起こるのかわからないワクワク・ドキドキのツアーとなった。私が今まで訪問したことのあるアジアやアメリカなどとはまた違った生活様式・文化がそこにはあった。（これについてはまた後日）

書きたいことやまとめたいことがたくさんあるが、今回は学校訪問についての印象とコンタクトパースンのことだけ書くことにする。

カメルーンの新年度は 9 月からで、年末年始はちょうど冬休みの最中。1 月 6 日から学校が始まる。訪問したのは、休暇中の 12 月 28 日、1 月 2 日、3 日であったが、特別授業が行われていたり、生徒たちが登校して友達同士で勉強したり、校庭で遊んだりもしていた。教師との意見交流や生徒との質疑応答、施設見学などを行ったが、私たちが訪問すると聞いて、わざわざ登校してくれた生徒もたくさんいた。

カメルーンでも財政的な問題が大きい。訪問した学校では、学校施設も電灯のない教室がほとんどであったし、工業専門の学校でもミシンや金属加工の機器などが圧倒的に不足していた。教科書などの教材にしても数人で一緒に使用し、それも何年にもわたって共用しているそうである。

そんな不十分な教育環境の中、もっと教育を受けたい、日本に行って勉強したいという熱意やしっかりと将来を考えている生徒たちの真剣さに出会って、私が考えたことは、私たちに何ができるのか、という自分への問いかけとともに、何とかしなければいけないのは寧ろ日本の教育ではないのか、との思いであった。

今回のカメルーンツアーを終えて、今後、e-dream-s の教育支援事業の一環として何をしていくのかを考えていくことにしている。加えて、私は今、1人の教師として、また教育に携わる NPO の会員として、今の日本の教育状況をどうしていけばいいのか、どう変えていくことが必要なのか、を考えていくことの重要性を改めて感じている。

もう 1 つ書いておきたいのは、コンタクトパースンのことである。私たちのツアーはいつでもそうだが、キーになるのは“人”である。人との出会いが私たちをツアーに駆り立て、ツアーの中でまた新しい出会いがある。今回は、日本に研修に来ていたカメルーン人との出会いが始まりであった。私自身は彼の日本滞在中の 2 回しか会っていないのにツアー中ずっと同行してもらい、また図々しくもホームステイ（何と 6 泊も！）までさせてもらった。ツアー中ピグミー族の居留地にも行く機会を得たが、その際にもエサマ氏というピグミーのプロモーションのための団体を主催している人に出会ったことで、ピグミーの人たちの暮らしに触れ、直接話をする機会にも恵まれた。そんな人たちとの出会いが、私たちに新しい出会いを提供し、新しいネットワークを作っていくのである。このネットワーク力は、私たちの強みであり、これからの時代のキーワードでもある。

ウツラーラー（註1）

e-dream-s 理事 山田昌子

昨年暮れより中川さんとカメルーンを訪問した。滞在中のすべてのプログラム終了後、ほっとしたのか、私は 3 日の夕方高熱を出した。やむを得ず、私は、4 日、最終日の朝、ホストであるカメルーンの友人に病院に連れていってもらうことにした。ウツラーラー。

鉄の門をくぐると、小奇麗なライトブラウンの平屋の建物と庭があった。建物の入口には、手彫りの木札が置いてあった。外来者用の番号札らしい。ひとつ手に取り、中に入った。数日前からマラリアの薬を飲んでいるが微熱と嘔吐を繰り返している、

友人の娘（1歳半）も母親に抱かれ一緒に入った彼女は私以上にぐったりしていた。私は、パスカルと受付を済ませ、廊下の長椅子に座った。頭がぼっとして周りの様子ははっきりしなかったが、診察を待っているカメルーン人は十数人。英語を話しているイギリス人らしい男性が2人立っていた。心無しか、皆憂鬱そうだった。ウツラーラー。

「ヤマダさん、この病院はイタリア人医師がやっている私立の病院で、信頼できる。そんなに高くないしね。公立の病院は、人が多くて長時間待たされる。ここではすぐに診てもらえる。もう少し待っていて。友が、気を遣ってくれる。でも私は声も出さず、ただ頷いて目をつぶった。吐き気と腹痛がなかなかおさまらない。何度もトイレに行った。出国前のわずかな知識から、マラリアかもしれないと覚悟を決めた。私は蚊に好かれやすいのかもしれないわ。ウツラーラー。中川さんが心配そうに横についてくれた。

暫くすると受付の右隣りの問診室に通された。来る途中、近所の雑貨屋の隣の店で、友人が購入した小さなピンク色のノートを出す。これがカルテになるようだ。症状を伝える。再び廊下で待っていると、奥の小部屋に入った。白衣を来た小柄な丸顔のドクターが小さい机の前に座っていた。私は、その前の椅子に座った友人がフランス語で私の症状を伝えてくれ、ドクターもフランス語で話した。漸く英語で「熱を計れ」と言われ、見ると39.4℃だった。気が遠くなった。検査をするというので、入口近くのクリスマスディスプレイが前に飾ってある部屋に入り、採血する。看護師さんがパックに入った注射針を見せ「大丈夫だからね」と手ぶりで言う。ひとつ不安が飛んだ。昔小学校の理科の授業で使ったようなプレパラートに私の血液を1、2滴たらす。便と嘔吐液の検査もあった。1時間位廊下でウトウトしながら待っていると、パスカルが日本語で言った。「ヤマダさん、マラリアです。」ウツラーラー。友人は、カメルーンにはよく効く薬（キニーネ）があるから心配いらないと、一生懸命励ましてくれた。

再度ドクターの部屋に入ると、マラリアだけでなく、汚い水に含まれていたアメーバから来る下痢症状（アメーバ赤痢ではないかと思う）、また入国前から調子が悪かったので咳が出るのではないかと診断された。汚い水？レストランの生野菜友人に食べるなど言われたけど、口にしちゃったかな？ピグミー族のお宅で飲んだココナッツのカップ入りのパームワインやろか？ドクターがフランス語で言ったことを、が英語に直してくれ、私は熱でボーとした頭でなんとか口を開き、英語で最低限の事柄を確認した。英語で「10日間程薬を飲みなさい」と言われた。ウツラーラー。それで症状が良くなるんなら“まっ、いっか、死ぬわけじゃないし！”私は妙に腹が

きまっていた。薬をもらってから、急に点滴をすることになった。約3時間ベッドに横になった。多量の汗が出て、私の熱は下がった。中川さん、長いこと待たせてごめん。今日のショッピング、台なしや。ウッラーラー。

中川さんが支払いをしてくれ、友人に頼んであった領収書を見ると、22,700フラン(4,500円位)だった。10,000フラン/年(2,000円位)の教育費が支払えず secondary school に進めない子供たちが多く、また、公立教員の平均月収が150,000フラン(30,000円位；足りないのでサイドビジネスをする人が多い)だということを考えると、これは決して安いとは言えない。ウッラーラー。

友人宅で急いでパッキングをし、ドウアラまでバス4時間、パリまで飛行機6時間、パリで待たされること8時間、最後の国際線12時間の間忘れずもらった薬を飲んだ。少しずつ症状が治まってきた。

帰国するとすぐ、大阪市立総合医療センター内感染症センターの阪上賀洋ドクターに診てもらうことにした。熱帯病の分野では著明な医者だ。今後のアドバイスをもらうためだった。が、すぐに検査入院することになった。阪上ドクターは、海外では何でもマラリアと診断することが多いので、きっちり調べることが必要だと言う。赤痢であれば伝染病。私は個室に隔離されることになった。約1週間とか。ウッラーラー。

隔離と言っても、心地よい綿のシーツとふとん、温かいシャワー（カメルーンでは水であった）、清い水（カメルーンでは水道水でも濁っていた）。採血も試験管に3本、レントゲンも技師が私の部屋に機械を持って来て撮ってくれた。たったそれだけでも、あまりの違いにクラクラ。果たしてマラリア検査の結果は、陰性だった。

カメルーンの病院は友人によると「結構いい病院」。が、阪上ドクターによると「マラリアには数種類あるが、どのマラリアか、カルテに記入がない。また、マラリア・アメーバ赤痢・赤痢の薬が投与されており、通常このような大病が3つもあるなど考えられない、『いいかげんな診断』極まりない」。

結局何が原因で高熱を出したのかは、点滴・投薬（抗生物質）を行っているため（菌等が死んでしまったらしく）わからないが、それでも「マラリアだとは考えにくい」そう。現在は、何の問題もない。血液中で少し高い数値もあるが、これも点滴・投薬の影響があるよう（?）。カメルーンでは、お金がある程度ある人でもこのような診断しか受けられない。お金がなければ尚更だ。カメルーンの医療の現状に、自分の身をもって、やりきれない思いがした。ヤウンデを出る時、元気になった友人の娘

が笑顔を取り戻し、「パパ」と彼を呼んだ、愛くるしい姿が思い出された。

12月26日以来、15日ぶりに我が家に戻り、ただホッとしている。カメルーンでの数多くの体験に今だ興奮しつつ、カメルーンの現状をふまえ、今後私たちはどのようなことが出来るのか、考えていきたいと思っている。来月号でもカメルーンについて報告をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

註1：カメルーンで現地人が使っていた「あらら（困った）」という意味のフランス語。

困ったと言いながら、そのトーンは妙にとぼけた、明るい感じがして、中川さんと私はすぐに覚えてしまった。

註2：カメルーンの外交官。2001年11月来日、2002年6月

まで関西国際センターで日本語講座を受講、日本文化も学んだ。山田の勤務校の国際理解教育講座に招いたことから親しくなった。e-dream-sでは、6月に彼を講師に招き、カメルーン学習会を開催した。

2002-2003 カメルーンツアー報告

e-dream-s 理事 山田昌子

e-dream-s の教育支援活動の予備調査の一環として、暮れから新年にかけ、副代表理事中川房代さんと私は、カメルーン（アフリカ）を訪れた。詳細は、今後 e-dream-s 通信や News A (ACROSS) で原稿（エッセイ）を書くことにし、今回は、簡単に報告をしたい。

- 1 日程 2002年12月27日（金）ドウアラ空港着
～ 2003年1月4日（土）ドウアラ空港発 （9日間）
- 2 訪問地
 - ・商業都市ドウアラ、リンベ（もとイギリス領；英語が比較的通じる）
 - ・首都ヤウンデ（もとフランス領；共通言語はフランス語）
 - ・ビピンディ（ピグミー族居住地のひとつ）
- 3 主なプログラム
 - （1）学校訪問：5校（リンベ、ヤウンデ）
 - （2）ホームビジット、ホームステイ

(3) ピグミー族居住地訪問

(4) 市内見学（ドウアラ、リンベ、ヤウンデ）

4 教育事業計画

カメルーンのセカンダリースクールの生徒との e-メール交流推進事業を進めたい（下記の「e-メールでの国際交流募集」参照）

5 支援活動として検討したい事柄

- ・現地学校への協力・援助
- ・ピグミー族への協力・援助
- ・学校設立やアフリカ-アジア交流協会への協力・援助

（これらについては、中川さんと検討の上、提案したいと考えています）

6 詳細な日程

1 2月26日（木）関西国際空港→ドゴール空港（パリ） ◎ホテル・ガリレオ泊

1 2月27日（金）ドゴール空港（パリ）→ドウアラ空港、リンベへ移動、
アサファーさんのパソコン教室訪問、ホームビジット（アサファーさん）
◎アトランティックビーチホテル泊

1 2月28日（土）<リンベにて>

★学校訪問1校（[Government High School Lycee Classique de Limbe](#)）

★リンベ市内見学（カメルーン山の噴火後見学、ホテルのプライベートビーチ、動物園、植物園、スーパー、漁村等）

ドウアラを経て首都ヤウンデへ

◎友人宅にてホームステイ

1 2月29日（日）<ヤウンデにて>

ホームステイ先でカメルーン料理など。ホームビジット（パスカル氏の兄）

◎友人宅にてホームステイ

1 2月30日（月）<ヤウンデにて>

ホームビジット（マナさん、ドクターエサマ、マナさんの弟ババさん）、

★ヤウンデ市内見学（国際会議場、日本大使館、フェベ山、マダガスカル市場、

ブリケッデリィ市場、モーコロ市場、スーパー）

◎友人宅にてホームステイ

1 2月31日（火）

★ヤウンデから西のビピンディヘランドクルーザーで移動

（協力：[Dr. Essama Mbarga Pierre Emmanuel - Fondation Camerounaise pour la Promotion des pygmees](#)）

★深夜ピグミー族とのダンス

◎ドクターエサマ宅にてホームステイ

1月1日(水) ★ピグミー族訪問、ピグミー族のための学校見学。

ロドドルフ、エセカを経てヤウンデへ移動。

◎友人宅にてホームステイ

1月2日(木) <ヤウンデにて>

★学校訪問2校 (Government High School Biyem-Assi、College Prive Laic Fleming)、

インターネットカフェ、ホームビジット (ティマ夫妻)

◎友人宅にてホームステイ

1月3日(金) <ヤウンデにて>

★学校訪問2校 (MEVICK Bilingual College、Institut des Techniques Industrielles d'Etoug-Ebe)、ホームビジット (ホストの近所の家)

◎友人宅にてホームステイ

1月4日(土) <ヤウンデにて>

★午前、病院 (Centre de Sante Marie Immaculee) にて山田、診療治療してもらった。

午後、ドウアラへ移動。ドウアラ空港へ (◎機内泊)

1月5日(日) 早朝ドゴール空港 (パリ) 着、待ち時間8時間、

ドゴール空港 (パリ) へ (◎機内泊)

1月6日(月) 正午頃関西国際空港着

※ eメールでの国際交流募集

“ カメルーンのセカンダリースクールの生徒と
eメール交流をしませんか ”

セカンダリースクール (リンベとヤウンデ) の生徒たちが日本の学生とのeメール交流を希望しています。現地は電話事情がよくないので、彼らは専らインターネットカフェからのインターネットアクセスとなります。現在毎日山田の方に希望メールが届いています。希望者は、山田までeメールにてご連絡ください。(希望者多数の場合は、御相談させていただく場合もあります。)

- (1) 方法
 - ・勤務校の生徒が、eメール交流する
 - ・自分が、eメール交流する
- (2) 希望者は、山田昌子 (yamada@e-dream-s.org) まで
- (3) 締め切り： 今月中 (1月31日 (金) まで)

「辛い、でも う ま い !!」

山本貴子

1月12日(日)お昼。考えるのは昼食について。家でのお休みの久々のお休み。主人はバスケットボールの試合のため、朝早くから出かけた。今日の昼食は、子供達と私。麺類がいいなあ・・ 子供達はうどんが大好き。私の実家の母から受け継いでいるやや薄めのだし汁は、グルメのアクロスメンバーにも出せるな、と少々自慢ができるもの。音戸(母の生まれた町)の特産品のいりこと昆布でだしをとり、天然塩のだしの素を。味付けは、薄口しょうゆ。だしの色は濃くしない。みりんを少々。隠し味で砂糖も。順序は、さしすせそ、で。

麺は、スーパーの茹で麺ではなく、讃岐の手打ち麺。たっぷりのだしを入れ、かまぼこ、甘辛く味付けた油揚げ、とろろ昆布、ねぎは多めに。母が、私の家の庭に作った菜園には、青々したねぎが育っている。

私自身もうどんは好きだが、うどんを作っているおなべの横に、もうひとつのなべでお湯を沸かした。ラーメンを食べるためだ。今日の私のお昼ご飯は、辛〜いラーメン、辛ラーメン。お正月に韓国人の Young Hee からおみやげにもらったもの。以前も何度か辛ラーメンは食べたことがある。11月に下見で韓国に行ったときも一人で辛ラーメンを食べたっけ。

今日は、妙に食べたい気分だった。昨夜、彼女からのEメールを読んだからか。

お湯は、普通のラーメンよりも多めにする。キムチや唐辛子は結構好きでも、やっぱり辛すぎるから。出来上がりの熱々をふ〜ふ〜やりながら、Young Hee 一家のことや今夏のE C A Pのこと、ソウルでのホームステイのことなどいろいろ考えた。

何かひとつの企画を計画し実行し、その目的を達成することは、たとえ小さな企画だとしても大変なものである。でも、それを実行する者、参加する者にだけ味わえるおいしいものがある。

このお正月に Young Hee 一家4人を我が家に招いたことは、確かに私たち家族4人にとって、それぞれがプラスの経験になった。私にとっては、今夏の韓国セミナーのコンタクトパーソンである Young Hee と顔を合わせて話し、つながりをもてたこと。子供達にとっては、お互い言葉は通じないが、一緒に遊び、笑い合えたこと。主人にとっては、う〜ん…疲れたかな?(ご苦労様でした。)

そう、あの日、1月3日は、塚本家にホームステイしていた彼女たちが福岡からや

ってくるというので、広島駅の改札口で待ち合わせしていた。が、なぜかすれ違って、約束の時間より 20 分ほど遅れて会い、うれしくて思わず、駅構内での B I G HUG から始まったのだ。そして、小雨降りしきる寒い宮島を歩きまくったな。うちのやんちゃ息子が「だっこ〜。」と駄々こねていたら、Young Hee のご主人がさっと肩車して歩いてくれたな。夕方家に着くのが遅くなってしまい、遅い夕食になってしまった。その後、お風呂を沸かし、Young Hee とご主人に入ってもらったら、なんとご丁寧なことにお湯を抜いて流していて、もう一度お風呂を沸かしなおしたな。次の朝は、私は大阪の冬合宿に向けて 7 時 30 には家を出たので、その日の平和公園案内は主人にお任せにしてしまったな。

思い出せば、小さいことだけどいろいろあった。

Young Hee が韓国に帰った 1 月 8 日の夜、塚本さんと私にわざわざお礼の電話をかけてくれた。それに対してメールを送るとまたすぐ以下のようなメールをくれた。こういうこと、こういう人とのつながりが、何とも言えず気持ちよくなって、たまらなくうれしい。

Dear Takako and Kenji

How are you doing? Your school has started again, hasn't it? I am on duty today, so now I am at my office.

Thank you so much for your care about our family while we were staying in Hiroshima. It was a great experience for our family. Miyajima was so beautiful that we were so impressed by its scenery. Especially Kenji devoted himself to looking after our family after you started for Osaka.

Please give my regards to your husband, Kenji.

Takako, I won't be able to forget your kindness you gave our family in Japan. Moreover, please give my regards to your parents. Your father gave us brushes which he made for himself. Thank you very very much. Of course I will keep in touch with you by e-mail. Do take care of yourself and bye!

辛ラーメンは、ほんっとに辛い！けど、うまい！
今夏の韓国でもいっぱい美味しいものを食べたい。そして、ほんっとに**おいしい**経験をしたい。それまでの準備は、大変だと思う。でも、おいしさを味合うためには、がんばらないと。

みなさまも、今夏の韓国セミナーに、ぜひ参加してくださいませ。

ECAP 実行委員会、Young Hee 先生との打ち合わせ報告

1月5日（水）1時～2時（ハイアットリージェンシーホテルにて）報告者 稲川

1. アンケートについて

- ・日本側ですでに実施済みの下アンケートの結果の読み合わせをし、韓国側下アンケートの質問について検討。

【韓国側でのアンケート質問について】

- ・設問数は日本側で実施分のものをもとにいくつかのジャンルをあわせて少し減らして20～25問にする。
- ・実施対象は約3クラス分、100名程度。
- ・意識調査のアンケートも別途作って実施する。
- ・実施時期は、韓国の新学期が3月で人事異動等の関係もあるのでできれば3月下旬遅くとも4月上旬になる見込み。
- ・アンケートは塚本、山本で作成し、Young Hee 先生へ送付。
- ・集計は日本側とする。記述式の部分はあらかじめ Young Hee 先生が生徒の書いたものを英語に直しておいてくれる。

2. 広報について

- ・教育委員会へは、3月頃文書をだすのがよい。受け入れて宣伝してくれるどうかはわからない。
- ・ソウル周辺の地域「キョンギ」の教育委員会にも文書をだしたほうがよい。（イー・ヨンデ先生が勤められているのもキョンギの学校である）
- ・韓国の教員組合が2つある（政府側寄りとそうではないもの）のでそこに Young Hee 先生がHP等を通じてコンタクトをしてみてくれる。

3. 韓国側参加費用について

現在設定しようとしている2万円は、やはり高いと感じられるだろう。フェニックスパークに韓国人が会員価格でとまれば費用は一部屋一泊2500円くらい。2泊3日で食事も交通費もいれて1万～1万5千円くらいが妥当ではないか。

1月6日 Young Hee 先生との打ち合わせを受けた ECAP 打ち合わせにて

- ・韓国の教育委員会へは代表が出向いて文書での依頼内容を説明する方がよい。

- ・ 韓国側参加費用は妥当な線まで変更した方がよいだろう。
(韓国側参加者についてはJTBとは別に宿泊費が安くなる方法も探してみる。)
- ・ 今後のECAPを進めていくため、韓国事務局を作る必要がある。現地での参加の申し込み受付や参加費の徴収などの仕事をしてもらう。
(張さんに依頼する方向で考えていく)

News A CD-ROM プロジェクトを完了して

丸野 有利子

「19日～20日に飯田さんと最後の作業を終え、他に必要なファイルとともにCD-Rに保存して、やったー！見事完成！・・・したのですが、試しにそのCDを開いてテストしてみたら、何と開かない画像がいくつもあったのです。最後の最後で壁にぶつかってしまいました。せっかく大阪まで行って、2日間しゃかりきになって頑張ったのに・・・(涙)

気を取り直して、データベースソフトのサポートデスクとメールや電話で相談しながら、飯田さんと解決策をあれこれ試しているところです。

ということで、マスターCD-ROMをお渡しできる日が延びて、早くも25日頃になりそうです。またご連絡しますので、よろしくご了承ください。」

これは、CDの複製作業をお願いしていた飯田さん、志村さん、小関さんへ2002年12月21日に送ったメールです。

この後、連日連夜あれやこれや試しては失敗の繰り返し。一時はセミナーに自分のパソコンを持参して、それを映してデモンストレーションするしかないか、と諦めかけました。でも、絶対1月5日に発表しないといけないんです！とサポートデスクに訴えて凶々しくも失敗版CDを送りつけたら、2000枚近い画像をすべてチェックしてくれたり、大阪から神奈川の自宅まで電話をくれたり、最大限のサポートをしてくれました。それに励まされながら、さらに色々試した方法の一つがラッキーにも成功し、29日の午前3時にとうとう完成。何とか年内に複製担当者へ発送することができたのは奇跡的でした。

複製されたCD40枚がセミナー会場に到着し、辻岡さんのお世話でプロのデザイナーに作成してもらったNews A ロゴ入りの素晴らしいラベルをACROSSバーで飲みに来ていた方々に協力してもらって貼り付け、配布できたのが皆さまのお手元にあるNews A CD-ROMです(貼るときにちょっと手元が狂ったものもあるかも・・・)。

技術的な問題を何とかクリアし、こんなに膨大な画像とデータが納まってちゃんとリンクし合うデータベースファイルが出来たなんて、今でも信じられないという思いが強いです。

「年内に完成せよ」なんて無茶だ、絶対不可能だ、と思っていたことが実現できたのは、手間と時間のかかるキーワード等チェック作業とデータベースに必要なテキストファイル作成を手伝ってくださった大勢の方々、それを手配してくださった中川さん、CDを複製してくださった方々・・・そして、気短な私との共同作業でストレスが溜まったに違いないのに、文句一つ言わず、常に暖かい励ましの言葉をかけながらマラソンを伴走して下さった飯田さんのおかげです。

ウィンターセミナー後に届いた辻先生からの年賀状に「CD-ROMはすごくいい出来ですね。見出すとずーっと見てしまいます」とありました。この言葉をうれしく噛みしめています。

NEWS A の CD-ROM 完成!!

NEWS A CD-ROM プロジェクト担当

飯 田 佐 恵

足かけ3年かかったNEWS AのCD-ROMがやっとこさでき上がりました。やれやれなんです、今ひとつ「バンザイ」と叫んで解放感を味わえないのです。

それは予定通り1月4日に100枚そろえてACROSSへ納入できなかつた悔しさがあるからです。

先月の19日と20日にかけて丸野さんが大阪へ出向いて来てその日に完成するはずだったのにデータベースファイルができてCD-ROMにも焼いてチェックしていたら、なんとはっきりと映らない画像が出てきたのです。「ええ、何、これ。」「何で。」さあ、大変。翌日から三連休でサポートセンターとコンタクトは取れない。サポートセンターが閉まる10分前の4時50分に電話で丸野さんが事情説明。回答は翌週までお預け。週明けから今年の御用納めの28日まで丸野さん一人でサポートデスクと相談しながら2日間徹夜をして改訂版を作ってくれる。暮れも押し迫った30日からCD-ROM複製作業開始。正月準備もあるので小関さん、志村さん、丸野さんと私の4人で100枚複製する時間はない。結局、冬合宿の参加人数だけの複製で勘弁してもらったのです。私は欲張りなのかもしれないけど、とつても残念な思いが未だに消えません。

ところで、CDを買ってくださったみなさん、CD-ROMを開いて楽しんで読んでもらっているでしょうか。丸野さん作成の親切で分かりやすいマニュアルに従っていろいろな方法で記事をお楽しみください。初級の方もキーワード「息」「横隔膜呼吸」「鏡」「頂点」「体操」「ディクテーター」「チェック」など思いつくままに検索すると、日頃悩んでいることが解決されるような記事がでてきます。是非参考にしてください。

最後になりましたが、「CDを作ったら」「折角やから検索できたらええなあ」といつも斬新なアイデアを出してくださる井川顧問、「BILLETE”ソフトを見つけてくださった辻代表理事、作業協力者を募ってくださり、ご自分も作業を手伝ってくださった中川副代表理事、気持ちよく協力してくださった岡田、志村、吉本屋、新谷、宮城、竹野、塚本、後藤、朴、田辺、河野、後藤、浅野、木村、小関、辰巳のみなさん、センスのいいモダンなデザインのラベルを頼んでくださった辻岡さん、個人的に私にいろんなパソコン操作を教えてくださいました辻さん、山田さん、丸野さん、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

@ag glance 写真使用例の作成にご協力を！

～教材作成・収集チームより～

道面 和枝

昨年末から@ag glance のサイトに「今週の使用例」として、過去掲示板に寄せられた会員からの授業例を掲載しています（中学・高校と交互に、毎週1例ずつ）。これをヒントに、自分も使ってみよう！という気になるようなものになればいいな、と思っています。

この形で3月まで掲載した後、4月からは、さらに使いやすいものにするために、以下の形式で使用例を掲載したいと考えています。

◇中学英語：メジャーな3社の教科書（NEW HORIZON, NEW CROWN, SUNSHINE）（1～3学年）を載せる。シラバスと共に、單元ごとに、「題材」に関するもの、「文法」に関するものに分ける。

★をクリックすると、詳しい使用例が表示されるようにする。

* 1学期分：3月末にまとめて掲載

* 2学期分：8月末

* 3学期分：12月末

【例】NEW HORIZON（2学年）★のついたものが使用例。

学期	単元 (題材)	文法事項・基本表現
1	<p>Warm-up : A Speech and a Game Show and Tell と 20 Questions ★好きな写真を見せて、それを紹介するスピーチをしよう。【発展】</p> <p>Unit 1 : Hiking with Ms. Green クラスでのハイキングの企画。お知らせ</p> <p>Unit 2 : Yumi Goes Abroad ユミの中国旅行という設定。連休の予定、入国審査、世界遺産への旅行。 ★ユミが中国で撮ってきた写真を見よう。【発展】</p> <p>Unit 3 : Let's Learn with Computers コンピュータの話題。インターネットを介して、韓国とシンガポールの英語教育事情を情報交換する。 ★韓国とシンガポールの生徒の写真を見てみよう。【導入】</p>	<p>○be 動詞の過去形 ★<u>だれがどこにいた?</u> (世界地図)</p> <p>○過去進行形 ○動詞 (look) + 形容詞</p> <p>○未来形 be going to ~ ○SVOO (V=show, give, tell) ★<u>これから見せる写真はどこの国?</u></p> <p>○SVOC (V=call, C=名詞) ★<u>「万里の長城」を英語で言うと?</u></p> <p>○不定詞 (副詞的用法) ○不定詞 (名詞的用法) ★<u>どの国に、何を見に行きたい?</u></p>

◇高校英語：教科書の種類が多いので、以下の3つのカテゴリで収集する。

- ①リーディングの題材 (アテンションゲッターとして、発展として)
- ②ライティングの題材
- ③オーラル・コミュニケーションの題材

*3月末に、いくつか掲載する。

もちろん、これらの使用例を、プロジェクトチーム4名だけで作成することは困難です。そこで、e-dream-s 会員の皆さまに、是非とも協力をお願いいたします！各担当から、さらに詳しい分担をするので、一人4~5例ずつくらい、よろしく願いいたします。

*1学期分のメ切は2月末です。

<分担> (中学) NEW HORIZON 1・3年：東京 (担当：佐藤)

NEWCROWN 1~3年 : 大阪 (担当：稲川)

NEW HORIZON 2年、SUNSHINE 1~3年：広島 (担当：道面)

(高校) 東京・大阪・広島 (担当：岡崎)

※これまで実際に使用した例でもいいし、このように使える、ということでもいいで

す。

※@aglance のキャプションつき写真の良さを生かして、「題材」に関するもので多く使えらと思います。

※「文法」についてはなかなか使いにくいかもしれませんが、藪先生の「漢字あてクイズ」（「今週の使用例」2）を参考にしてみてください。

◇今後の予定

まずは「英語科」での使用例からスタートしますが、このサイトの長を生かして、社会科など他教科で、あるいは総合的な学習で、さらに小学校で活用されることを願っています。職員室でインターネットにつながるパソコンのある方は是非、いろいろな先生方に実際の画面を見てもらってPRをしましょう！

また、その時の感想などを、掲示板に書き込んでみんなに知らせていただければ、さらにイメージが広がります。

とにかく、これからは「アイデア」が勝負！自分たちが撮った4,000枚近くの写真が、全国の学校現場で有効に使われるべく、知恵を出し合ひましょう！

お知らせ

<第10回理事会開催報告>

日時：2002年12月8日（日）10：10-12：30

会場：難波市民学習センター（大阪市）

- 議題：1. 11月に募集した「収益・イベント企画」についての論議
2. 事業の中間報告

応募には、19の企画が集まりました。

5つに分類すると以下ようになります。

- (1) @aglance の教材化に関するもの・・・6つ
- (2) イベントの企画・・・・・・・・・・3つ
- (3) グッズ作成・販売・・・・・・・・・・3つ
- (4) 会費改訂・寄附金の募集・・・・・・・・3つ
- (5) その他・・・・・・・・・・4つ

理事会論議を踏まえ、1月末を目途に対策を具体化していきます。

<第11回理事会報告>

日時：1月6日（月）15：00-16：10

会場：ハイアットリージェンシー・オーサカ

議題：収益企画について、他

決定事項：

1. e-dream-s財政逼迫の現状に際し、資金調達の緊急対策として、1月下旬より「小口債券」（短期借り入れ借用証書）を発行する
 - (1)小口債券は一口10万円、代表理事・副代表理事連名で発行する
 - (2)返済期限は2004年5月31日、両名の責任の下返済を行う
 - (3)理事は、一口以上購入する
 - (4)会員・賛同者にも協力をお願いする(希望制)
2. その他、寄附金、ワインへの賛助金のお願い、助成金への応募などを始め、資金調達のための事業展開を積極的に進めていく

方法などの詳細は、後日連絡します。

編集後記

新年早々、カメルーンからも、韓国からも、熱い報告が届いています。また、国内でも新事業案、News A の CD-ROM 化完了、@aglance 写真使用例の作成、と e-dream-s の新たな可能性が見えてきそうな動きが感じられます。今年も、e-dream-s にとって、面白い年になりそうですね！（塚本美紀）